

申請日： 年 月 日

WGC 大会本部 御中

※できる限りの範囲で記載してください。自由に記載、頁数に拘りません。

〔古河電工賞〕 モーター・コントローラーの自作・改造クラス・申請書

ゼッケンナンバ チーム名							
代表者							
連絡先	〒				－		
	TEL	－		－			
	FAX	－		－			
E-mail	@						

(1) モーターの基本仕様について

形式：

名称	
磁極	
スロット	
電圧	
相数	
直並列及びターン数	

例：ブラシレスモータ

名称	8:9 モータ (磁石:スロット=8:9)
磁極	32 極
スロット	36 スロット
電圧	24V
相数	3 相
直並列及びターン数	3 直 4 並 55T

a. アピールしたいこと (要旨)

b. 当大会への展開について（改良点など自由に記載ください。）

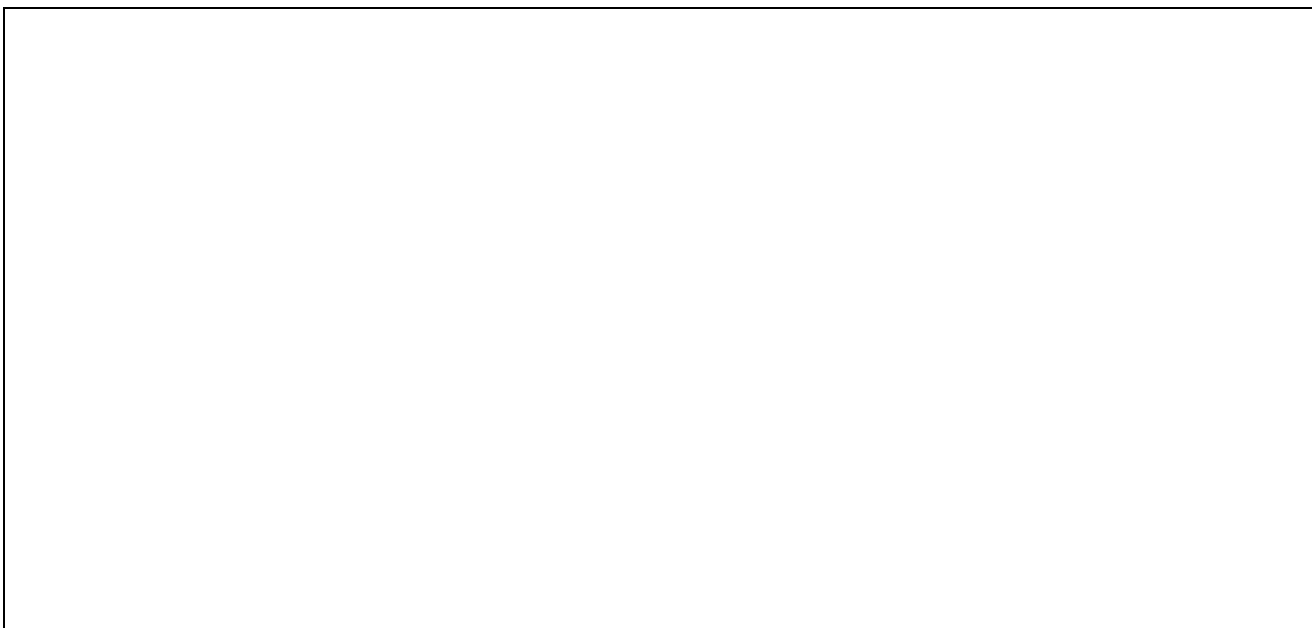


(2) モーター・コントローラーの電気配線図

★添付（貼り付け）してください。



(3) モーターのコアの部分の図面（ローター、ギヤキャップなど自由に記載）



(4) 特機事項（改造の場合、材料（モーターのコア、磁など）

※自由に記載下さい。

(補足)

日本での初めてのソーラーカーレースは、エネルギー消費増と環境保全との相反するテーマに関心が持たれ、電気自動車などのクリーンエネルギー自動車の開発、実用化がより強く求められる中、1992年に電気事業者連合会とエネルギー庁の強力なバックアップにより石川県・能登で実現しました。そして、20年が経過し、猛威を振るってしまった東日本大震災の後、自然の力が主役となり、必要以上の電気エネルギーをつくり出す責任の重さと貴重な電気を使用する尊さを改めて感じさせられます。

秋田県大潟村での大会は、26年を迎えます。

ものづくり及び技術者育成の観点から、モーターの自作部門クラスの設定や特別賞など推進、検討しています。背景として、ガソリン車もディーゼル車も、モータリゼーションの柱でしたが、「モーターと組み合わせる」という仕組みはこの20年で大きく進化しています。“100%ピュアEV”の世界はいずれ訪れます。現在でも市販車でも車はモーターが主動力の時代に入り、車メーカーも自社で独自の開発が進められてきています。

一般的にも、「温暖化対策と経済成長の両立には省エネが極めて重要な役割を占める。」と指摘されています。

最初は、特別賞として扱い、その後、自作部門クラスの設定を検討しています。更にグランプリの大会でのポイントにすることも検討中です。

エントラントとオフィシャルが一体となって、健全なる電気自動車の普及・促進を目指し、挑戦を繰り返しているのが秋田県大潟村でのソーラーカーレース（WG C）です。（文責：熊谷枝折）